

税金から庄内町、そして日本のこれからを考える

庄内町立立川中学校教諭 3学年 久松 雄樹

実施年月日：令和元年12月及び令和2年1月 30名

1 実践計画・指導のねらい

消費税の10%への増税に伴い、税金を身近に感じている生徒が多い。ただし、税金に対して「増税」「負担」などネガティブなイメージを持っている生徒も少なからずいる。税金が自分たちの生活にどのように関わっているのか、また総合的な学習で考えた『庄内町の魅力と今後』について、そこには財政も大きく関わってくるので、よりよい町づくり、ひいては国づくりにおける税金の重要性やあり方に気づかせたい。また、過疎化が進む庄内町においても安全・安心な生活のための社会保障の充実が重要課題であるため、自分事として考えさせたいと考えた。

2 単元構成・実際の指導状況（単元を通した全体の主な学習計画及び教師の指導）

時間	学習内容	主な発問 (○)、こどもたちの反応 (●)、使用教材等 (□)
1	・地方財政の仕組みと課題 庄内町など地方公共団体の実際の予算や税収、支出について知る。(12月)	○ <u>庄内町の財政について知ろう</u> ● 庄内町の財政規模を初めて知った。 ● こどもも財政は厳しいと感じた。 ● 庄内町を活性化させていく必要があるし、そのためには住民の意志が重要だと思った。 □使用教材名 教科書「新しい社会 公民」(東京書籍) 広報 しょうない (2019年4月1日号 特集 庄内町予算編成と施政方針) 広報 私の街さかた (平成31年度酒田市予算特集 2019年4月1日) 広報 つるおか 特集号 (平成31年度鶴岡市予算特集 2019年4月1日)
2 3	・私たちの生活と財政 税の必要性和税制度、政府の役割について知る。(1月)	○ <u>税の必要性について考えよう</u> ● 日常で当たり前と思っていたことが税金のおかげで成り立っていることを改めて知ることができた。 ● 税金の大切さ、ありがたさ、納めることの重要性がわかった。 ● 税金があることによって私たちの暮らしが豊かであると感じた。 ● 税のない世の中ではさまざまな困ることがあると思った。 □使用教材名 教科書「新しい社会 公民」(東京書籍) 資料集「ビジュアル公民 2019」(とうほう) DVD「ご案内します アナザーワールドへ」 副教材「私たちの暮らしと税」
4	・社会保障の仕組み 日本の社会保障の現状について知る。(1月)	○ <u>社会保障の必要性和その仕組みを知ろう</u> ● 大人になると負担がどんどん出てくるので、自分でちゃんと考えたりしないといけないと思った。 ● 国債の発行額が多いため、その解消のための有効な手立てを考えないといけない。 □使用教材名 教科書「新しい社会 公民」(東京書籍) 資料集「ビジュアル公民 2019」(とうほう) 副教材「私たちの暮らしと税」
5	・日本の社会保障のあり方と財政の課題 これからの日本の社会保障と財政のあり方を考える。(1月)	○ <u>これからの日本の社会保障の給付と負担について考えよう</u> ● これ以上の負担は苦しいが、せめて現状の社会保障を維持するための増税は仕方ない。 ● 例え税負担が大きくとも、北欧のように将来安心して生活できるような社会保障制度にするべき。 ● 負担の増減は、効率と公正の視点を持って考える必要もある。 ● 自分たちは将来年金をもらえるのだろうか。 □使用教材名 教科書「新しい社会 公民」(東京書籍) 資料集「ビジュアル公民 2019」(とうほう)

【指導のポイント】≪1時間目≫

庄内町の財政について、広報の資料を利用してどのような状況かを確認した。近隣の酒田市・鶴岡市の財政との比較も行い、地方自治体の抱える財政の問題について考えた。



【指導のポイント】≪2時間目≫

DVDを視聴し、税の必要性を考えた。また、税金の公平性について考え、累進課税制度についての理解を深めた。



【指導のポイント】≪4時間目≫

国家予算の資料を用いながら、少子高齢化が進む日本の抱える社会保障の課題を、実生活と照らし合わせながら考えることができた。

【指導のポイント】≪5時間目≫

日本のこれからの社会保障について、4つの立場を用意し、自分の考えに最も近いものを選び、クラスで意見交換を行った。意見は、自分なりのしっかりとした「理由」をつけて発表させた。自分と異なる考え方に触れることができた。

3 実践の成果 (◎) と課題 (◆)

- ◎ DVDやインターネットの資料を活用することで、より具体的なイメージを持って「税」について学ぶことができた。
- ◎ どうしても他人事だった「財政」について、町づくりとの関連から身近な、かつ重要な課題としてとらえることができた。そこから、自分たちに将来的に関わってくることを考えることができた。身近な政治に関心を持つことができた生徒もいた。
- ◆ 社会保障制度について学習した際に、疑問に思ったりした点を自分で調べたりできればよかったが、ハードの面でも難しく、また時間的制約があつて十分できず、主体的な活動を含む学習にできなかった。
- ◆ 夏休みの課題として税の作文を課しているが、事前に十分な学習ができない状況にある。単元計画を見直し、税に関する学習の時期や租税教室の利用も検討したい。しかし、授業時数の不足が課題である。